

AI 通信

52号
2022年
8月



～ポルトガルと熱海～ ジャカランダの開花時期に合わせ、ポルトガル図書コーナーの設置・パネル展示・お菓子づくり教室を開催しました。



社会教育室とコラボ企画
「中国語で入門太極拳八式」を開催しました！

目次

- 2ページ・・・ごあいさつ 会長 田崎 真也
- 3ページ・・・事業報告
- 4ページ・・・日本語教室より
- 5ページ・・・日本語教室 講師募集
- 6ページ・・・松本会長を偲んで
- 7ページ・・・ご支援、ご寄付のご報告 西岡ルイサ
- 8ページ・・・行事のお知らせ

熱海市の外国人市民数（2022年6月）

719人

（2021年9月の外国人市民数は、653人）

発行元：熱海国際交流協会
熱海市中央町1-1第3庁舎1階生涯学習課内
TEL0557-86-6233
kokusai@atami-ai.jp

会長就任のごあいさつ

この度、熱海国際交流協会の会長に就任した田崎真也です。

前会長の松本義廣様、そして役員の皆様、会員の皆様がこれまで活動されてきたことに敬意を表すとともに、今後少しでも熱海国際交流協会の発展のお力になればという思いでこの度会長職を務めさせて頂こうと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

私は熱海市に住民票を移してから 15 年が経過したところです。もともと転入前より熱海にはよく来ておりましたが、転入してから 15 年が経過し、ようやく熱海の様々な事を理解し始めたところでございます。

私は現在、一般社団法人 日本ソムリエ協会という全国に 17,000 人ほどの会員と 50 の支部がある協会の会長を務めております。その前には、世界 60 カ国が所属しております国際ソムリエ協会の会長を務めておりました。

この度新たに熱海国際交流協会の会長職を拝命するにあたり、過去からの当協会の事業を拝見させて頂き、今後どのような事業が展開可能なのかについて考えを巡らせました。

今年度は新たにポルトガルとの交流事業の実施が事業計画に含まれておりますが、会員皆様ご承知のとおり、熱海市は、イタリアのサンレモ市、ポルトガルのカスカイス市と姉妹都市であり、中国の珠海市と友好都市であります。これら3つの国・都市との交流を深めながら、当協会の事業を端緒として、これらの国・都市の食文化と熱海の食やフレーバーを取り込んだ「熱海の食材を使い、熱海の食と各国の食が融合した形『熱海キュージーヌ』」を実現できましたら、新たな価値が創造できるのではないかと考えております。この新たな価値「熱海らしさ」というものが、10 年後、20 年後の将来に姉妹都市・友好都市との文化の交流によってできたものだということで、熱海を訪れる一つの付加価値となるのではないかと考えており、実現に向け取り組みをスタートできればと思っております。

日本国内では、6月に一旦新型コロナウイルス感染症が落ち着くかと思いましたが、再び第七波に襲われ非常に厳しい状況が続きました。8月には「ワクチン3回接種で入国前のPCR検査が免除」「入国者数の上限も引き上げ」という明るい兆しも見えております。このような状況の中ではございますが、今まで積み重ねてこられた会員皆様の活動を守りながら、これから熱海を訪れる海外からのお客様や熱海に住む外国人と良い関係を築き、共に熱海の魅力を発信していきたいと思っております。

どうぞ皆様、お力添えのほどお願い申し上げます。



事業報告

「ポルトガル図書コーナー」6月1日～7月15日

熱海市立図書館にて

協会のスタッフが発案、作成したかわいい折り本をお配りしました。ノーベル文学賞作家、ジョゼ・サラマーゴの本を中心にポルトガルの料理、旅、歴史など多角的に知ることができる図書を揃えました。ご来館いただき有難うございました。



図書コーナーを飾ったミニパネル



内山社長と熱海市長

「ポルトガル パネル展示」6月4日～10日

起雲閣 和室

在日ポルトガル大使館のご協力の下、ポルトガルの装飾タイルの歴史や作品を説明したパネルを展示しました。内山社長自ら販売に来て下さったポルト・ド・ポルトの雑貨、アズレージョ・ピコのタイルをお目当てに6月4日、5日の二日間で200名以上の方がご来場くださいまし

「ポルトガルのお菓子づくり教室」6月23日

熱海ガスレモナキッチンにて レモンのケーキを作りました。

3年ぶりのお菓子づくり教室はとても楽しかったです。コロナ感染予防対策をしながらでしたが、少人数のアットホームな雰囲気の中で楽しむことができました。参加者の中には、ケーキづくりに慣れた方やレモナキッチンの常連さんがいらしたので、調理器具の場所や使い方も教わり勉強になりました。(参加した事業スタッフより)



ババロアをデコレーション中

「中国語で入門太極拳八式」

6月20日、27日 いきいきプラザ 多目的会議室

初の社会教育室コラボ企画として、中国語で、太極拳の型の意味や発音を学び、演武をしました。型の由来を知ることによって動作がスムーズになり、体を動かす時に型式を発することで日頃は難しく感じる中国語がすんなりと頭に入ってきました。



日本語教室より 防災ウォークを開催しました

外国人市民にとっては「避難所」、「災害」など防災に関わる日本語はとても難しいものです。日本語教室では、先生方が中心となりアイデアを出し合って、災害時によく使われる言葉の学習や防災リュックの中身の説明をしてくれています。5月に実施した防災ウォークについて日本語教室の先生おふたりに書いていただいた感想を紹介します。

日本語教室では年に数回、「体験型学習」として教室外での活動を通し、外国人学習者と共に、地域のことや文化・行事等を学ぶ機会を設けています。中でも最重要と考える「防災についての意識・知識」を持ってもらう機会として、5月末に町の中のピクトグラムを探しながら、その意味を正しく理解する「防災ウォーク」を実施しました。市役所～親水公園～来宮～第一小学校のコースを歩きながら、「ここは海拔〇メートル」「津波避難ビル」「地震時は高台へ」などの表示・ピクトグラムを見つけ、意味を確認。「“高台”と言っても、どのぐらいの高さならば安全と思うのだろうか?」、「いつも通っている日本語教室は海拔何メートルなんだろう?」と話しながら移動しました。「ゴールを小学校にしたのは、よく避難所になる「体育館」というものが無い国の出身者もいたからです。「学校に避難」の指示の場合、学校の中のどの建物が避難所になるのか、などを実際に教室の日本人支援員達が校門の外から説明しました。日本人支援員達も日頃歩き慣れた道路脇の電柱に津波注意の表示が沢山あること、自販機の中に「災害救援ベンダー」なるものがあることなど、新たに知ることもありました。雨が降り、足元が悪い中でしたが、外国人学習者達と長靴を履き傘をさして歩く町中ウォーキングそのものも楽しく、上り坂では若い学習者たちに励まされ、「体を使って」「命を守る」ことについて学べた日になりました。

日本語支援員 T

今回の防災ウォークはとても意義深い教室外活動でした。個人的には全然わかってなかった「津波避難ビル」の場所や自販機の「災害救援ベンダー」などを知ることができて本当によかったと思っています。

何よりも教室の外を学習者の皆さんと一緒に歩けたこと、共に歩くことそのものが貴重な体験だったと思います。机上の勉強は勿論大事ですが、教科書なしで交わす日本語の一言二言がたどたどしくてもきらきらしていました。

もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。 魯迅

防災ウォークは一般の方々も参加できるような企画に育っていくことを願っています。

日本語支援員 恒吉

歩いたコース

コース：いきいきプラザ→マックスバリュ（避難ビル）→初川沿いに海へ下る→親水公園（インフォメーションセンター）→銀座通り→大湯間歇泉→湯前神社→大乘寺前→来宮神社横を上がり→第一小学校（体育館）→来宮神社の付近で解散（約1時間15分のコース）

ピクトグラムとは？ 注意や情報を絵や図形で表したものだ。



津波に対しての安全な避難場所（高台など）の情報を示しています。

災害のうち、崖崩れ及び地滑りに対しての情報を示します。



災害救援バンダーとは？ 災害時に飲料水を提供してくれる自販機のこと。

にほんごきょうしつ Japanese Class

学習日語 일본어 교실 जापानी भाषा Lớp học tiếng Nhật

げーむ くいず にほん ぶんか まな あいさつ かいわ べんきょう
ゲームやクイズをしながら、日本の文化を学びます。挨拶や会話を勉強します。

ばしょ：あたましやくしよ いきいきプラザ Venue: Atami City Hall, Iki Iki Plaza

にちじ：きんようび 10:00-11:30 Day & Time: Friday, 10-11:30 a.m.

と あ あたまこくさいこうりゅうきょうかいじむきょく あたましやくしよ しょうがいがくしゅうか
問い合わせ：熱海国際交流協会事務局 熱海市役所 生涯学習課

☎ 0557-86-6233 ✉ kokusai@atami-ai.jp

日本語教室では一緒に活動をしてくれる
ボランティア講師を募集中です！



大切なことは外国籍住民に寄り添ってくださる気持ちです。
特別な外国語の知識は必要ありません。
お教室の見学もできます。お気軽にお問合せください。

松本会長を偲んで

昨年12月31日の夜に入った一報に誰もが「まさか!」と思いました。

松本会長がお亡くなりになって4カ月後の5月に伊豆山温泉観光協会の牧野会長、秋山専務にお話を伺ってきました。

AI事務局(以下、AI):松本会長が当協会の会長に就任された最初の理事会(平成29年)の頃から、松本会長と牧野さんは「大変仲の良いお二人」という印象でした。出会ったのはいつ頃ですか?

牧野会長(以下、牧野):50年ぐらい前かな、松本は20代の時だった。旅館組合の視察旅行で台湾のヒルトンホテルで同室になって、お互いに「面白いやつだなあ。」って意気投合したんだよ。それ以来の付き合い。フィリピンに行った時には、松本にブラディマリーを習ってね。今じゃどこでも飲めるカクテルだけど、その当時は珍しかった。トマトとウォッカを混ぜたものにタバスコが入っているカクテルなのに、「タバスコがグラスの半分ぐらい入っているの?」っていうぐらいひどい味で、「なんつう飲み物だ!」って思ったよ。当時のフィリピンは戒厳令が出ていて夜12時までにホテルに帰らなきゃならなくてね、急いでタクシーに飛び乗ったらタクシーの後部座席の底が抜けてて道路が見えるの。底のないタクシーが街中を走っててお客を乗せるんだから、驚いたよ。あんな経験は二度とないよね。

AI:松本会長の功績の中で一番印象に残っている事は何ですか?

牧野:たくさんあるけれど、一番思い出に残っているのは海岸沿いのコースタルリゾート計画かな。松本が「牧野、ワイズメンズクラブに入れよ。」と言うから、「じゃあ代わりに松本はJC(熱海青年会議所)に入れよ。」って入ったんだけど、中島水産の中島修さん、翠香園の小川陽二さんとにぎやかにやって、楽しかった。当時、熱海の海岸沿いを何とかしようという計画があって、「アカオホテルから福祉大病院のところまで橋を渡そう。」とか、「ヨットハーバーに舢舨(はしけ)の舞台を浮かべてラスベガスに負けないマジックショーやコンサートをやろう。」とか、いろんなことを語り合ったよ。今、サンビーチが砂浜になって親水公園ができて、ムーンテラスが出来た。本当にきれいな海岸線になった。

AI:プライベートではどんな方でしたか?

牧野:若い頃から好奇心旺盛で勉強家だったよ。温泉屋だからね、英語が話せたから「アメリカに掘削機がある」と聞けば、行ってとことん勉強して機械を輸入してくる。行くときはとことん、やる時も納得いくまでやる人だった。

秋山専務(以下、秋山):台湾へ少人数で旅行へ行った時は、入国カードを記入するところから、飲茶のオーダーやおいしい食べ方まで、全部やってくれた。気遣いができ、人を楽しませることに心血を注いだ人だった。国内外問わず、視察先では、「この施設のコンセプトは?」「外国人にはどういうサービスをするの?」なんて支配人やスタッフの話をよく聞いて、熱海に持ち帰ってどう生かすか、真剣に考える人だった。そういう方だっただけに、私たちに厳しい時もあった。松本さんとのご縁は一生忘れられないよ。

AI:協会の仕事の中で、松本会長のスピーチ原稿や記事は一度も書いたことがなく、会長から事務局へ仕事の指示をされることはありませんでした。にも関わらず、毎回素晴らしいご挨拶をされるので、会員のみなさんは理事会や総会の会長挨拶が楽しみでした。

秋山:スピーチ原稿だの、進行の打ち合わせなんてしたことはなくて、「今日はこういう主旨の集まりです。」と伝えておけば、会場へ来て当日の顔ぶれと雰囲気を見てさらりと話してくれる。

牧野:実は彼は大変な読書家でいろいろなジャンルの本を読んだ。朝4時に起きてコーヒーを淹れて新聞に目を通し、録っておいたニュース番組を見ておく。これを何十年もやってきた。人の心を掴む話ができるのは、彼の努力の賜物だといつも感心していた。

松本は車が大好きで、プライベートでアメリカへ行った時に、ルート66をドライブして、アラスカへ釣りに行ったよ。「アメリカを横断したんだから、牧野、次はパンアメリカンハイウェイを北から南へ走るぞ!」って言ってたのになあ。まだ「よお!」って現れそうなんだよ。高圧洗浄機でいつもピカピカに掃除していた松本の愛車がちょっとほこりがかぶっているのを見るとね、やりたいことはいっぱいあっただろうに、無念だよな。



2019年度総会にて

= = = = =



Muchas Gracias!



ペルーへマスクを送りました



2021年10月～12月にお寄せいただいたマスク300枚を西岡ルイサさんへ寄託しました。「(隔年でピアノカを集め、ペルーへ送っていた支援活動の)ピアノカが郵便の事情で届かない。」「ペルーでは、マスクが一枚35円し、貧しい地区に住む人々に行き渡らない。」、というルイサさんのお話を聞いて事業スタッフから会員さんへ呼びかけた活動です。かわいい布地を使って丁寧に縫製された当協会の会員お手製のマスクは、ペルーの女性や子どもたちに大変よろこばれたそうです。ペルーへの送料として会員の皆様と事業スタッフが集めた5,000円を中島副会長よりお渡ししました。

行事予告

ポルトガルと熱海

「文学から見るポルトガル ～サラマーゴ生誕100年～」

10月1日(土) 午前10:30～

起雲閣2階ギャラリー

お話:ポルトガル文学翻訳者 木下真穂氏

内容:16世紀、リスボンからウィーンまで歩いて旅をした象がいたという驚きの史実を基にして書かれた『象の旅』。作者のジョゼ・サラマーゴはポルトガル語圏唯一のノーベル賞作家であり、今年生誕100年を迎えます。『象の旅』の訳者が、本書の魅力と併せてポルトガルの歴史と文化などについても紹介します。

『象の旅』

インドからやってきた象のソロモンと象遣いのスブツコのコンビによる、ヨーロッパ西端のリスボンからウィーンまでの珍道中。『ゲド戦記』の作者、ル・グウィンが「とてつもなく可笑しい」と太鼓判を押した、サラマーゴには珍しい喜劇です。彼らが通り過ぎる村や町の人間たちが身勝手な思惑で象を恐れたり崇めたり利用したり、右往左往する様子が皮肉たっぷり描かれています。昔話を語るかのごときサラマーゴの文体は、耳で聞くようにして楽しんでいただきたいと思います。

「ファド模様」 2回公演

10月10日(月・祝日) ①午後2時～(開場1:30)②午後5時～(開場4:30)
起雲閣 音楽サロン 全席自由 ¥3,000

歌い手:高柳卓、津森久美子、藤沢エリカ

ギター:飯泉昌宏、山本真也、水谷和大

問い合わせ・チケット販売

チケット販売は9月5日(月)9:00～

主催:音楽家集団 CTA

協力:ポルトガル大使館、熱海国際交流協会



高柳 卓氏